



2m 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

経が寫意俊六之寒日錄
晏平仲整國小役して兵と辱しめられ等
晏子之御者々妻堅也すて生徒侍の等
吳王阖闾使孫子兵を兵と操りしる等
吳王文侯与之故八象に遊ふ等
孔子生魯陳寔と辯どら屬
并顙圓の仁廉節と改ざる等
魯伯丘豫讓漆身欲報主君仇と等

孫臏去術と縦一強盜伏伏とる圖

孫後魏よ幸て雨と祈る図

孫後以革馬服ひて弓弩射砲酒渴

蘭相如秦に之とも圖

并下和光先壁の事

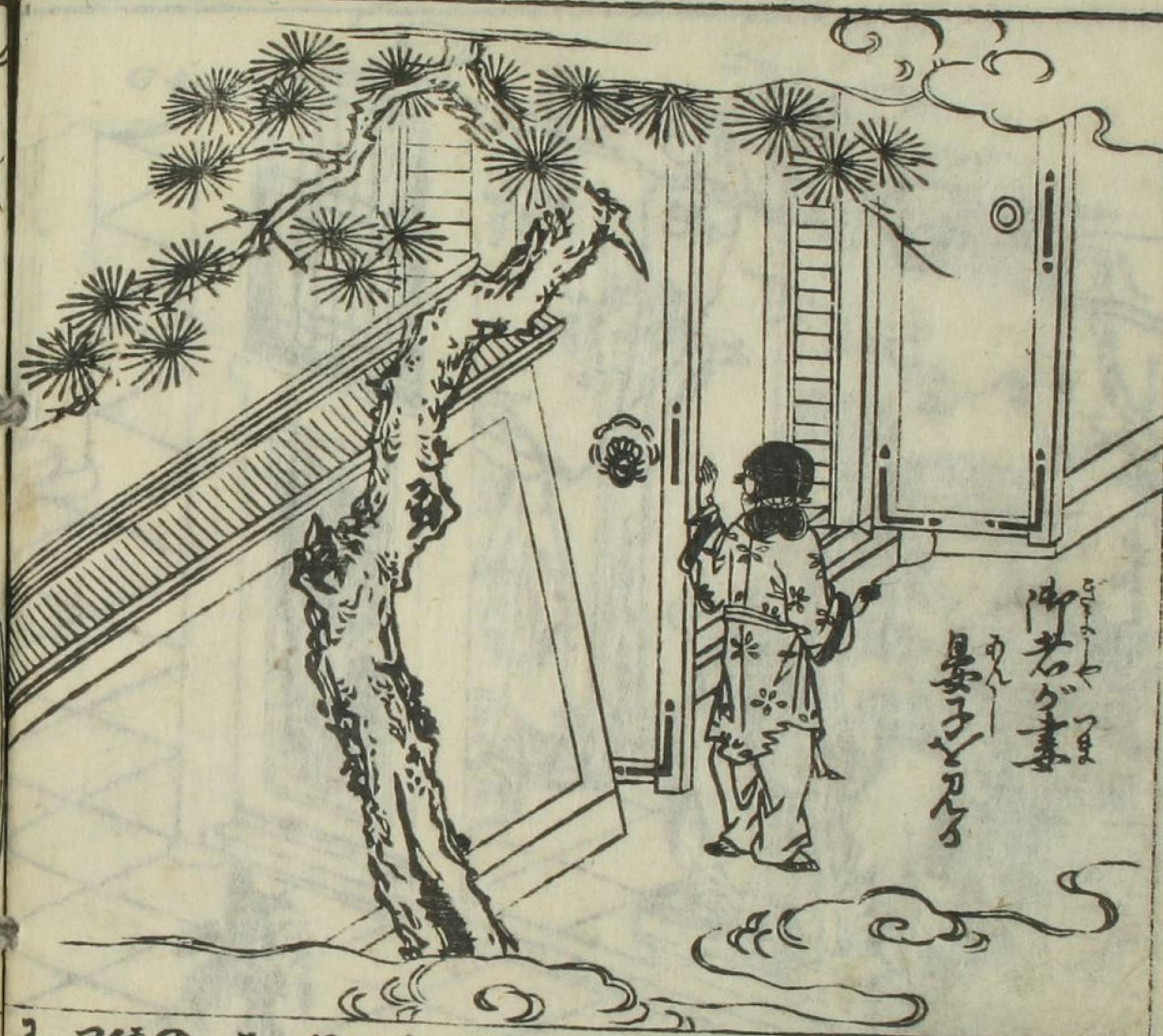
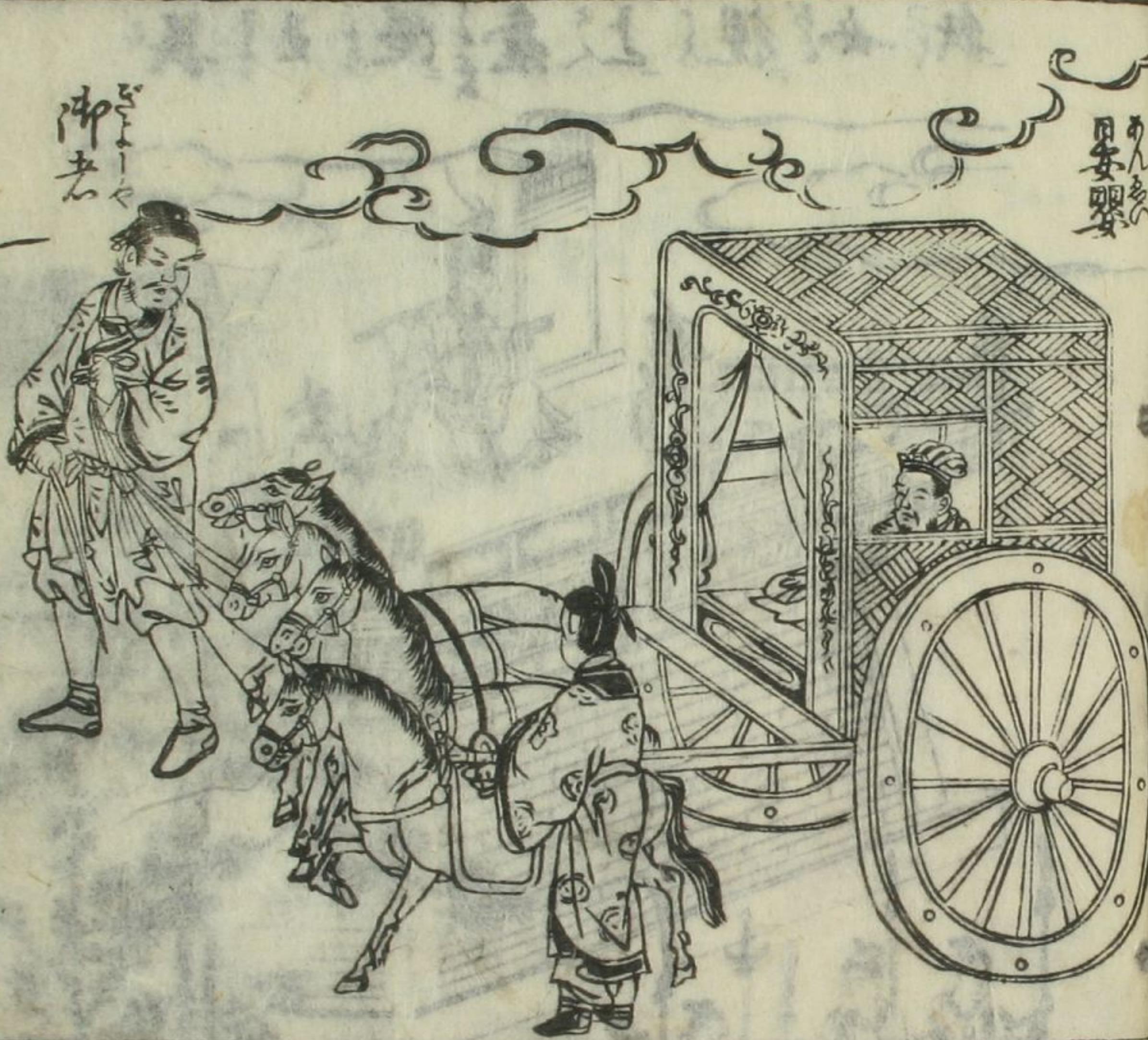
秦王与趙王會渑池とも図

荅相如慮頗り未と見く車成邊も図

繪本寫宝袋六之卷

晏平仲楚小吏して秋圃辱りめざる事
乃晏嬰家事の事と謝せんぐと申すに從と既不楚
小立て申れ風氣滅々と地盡まと小は南の夷
地あり進りくわびど一大門有て掩室せり傍に小つり
基と窓く巒一莖圃の奏者出遂に引く小門より入ん
とて晏子曰く我と怪うりとてすすり窮屈なり物園
乃從城外へとひづれと晏子大門より入る御も多
小立て數十人の儀官僕士左右に並んでかまうと
御もとと晏子とくと晏子とくと通音々々と重固口と
退く楚の上軍を史佚奉う曰晏子ハ秋の賢士也ぞと
怪るとして靈王に見る玉橋と楊小晏子はたれ食を晏子茶
晏子曰高麗玄栗賜新橋掛利もと云うと楚人
敢て辱ひりと絶りて過よ聘礼と收め晏子と寔とゆす





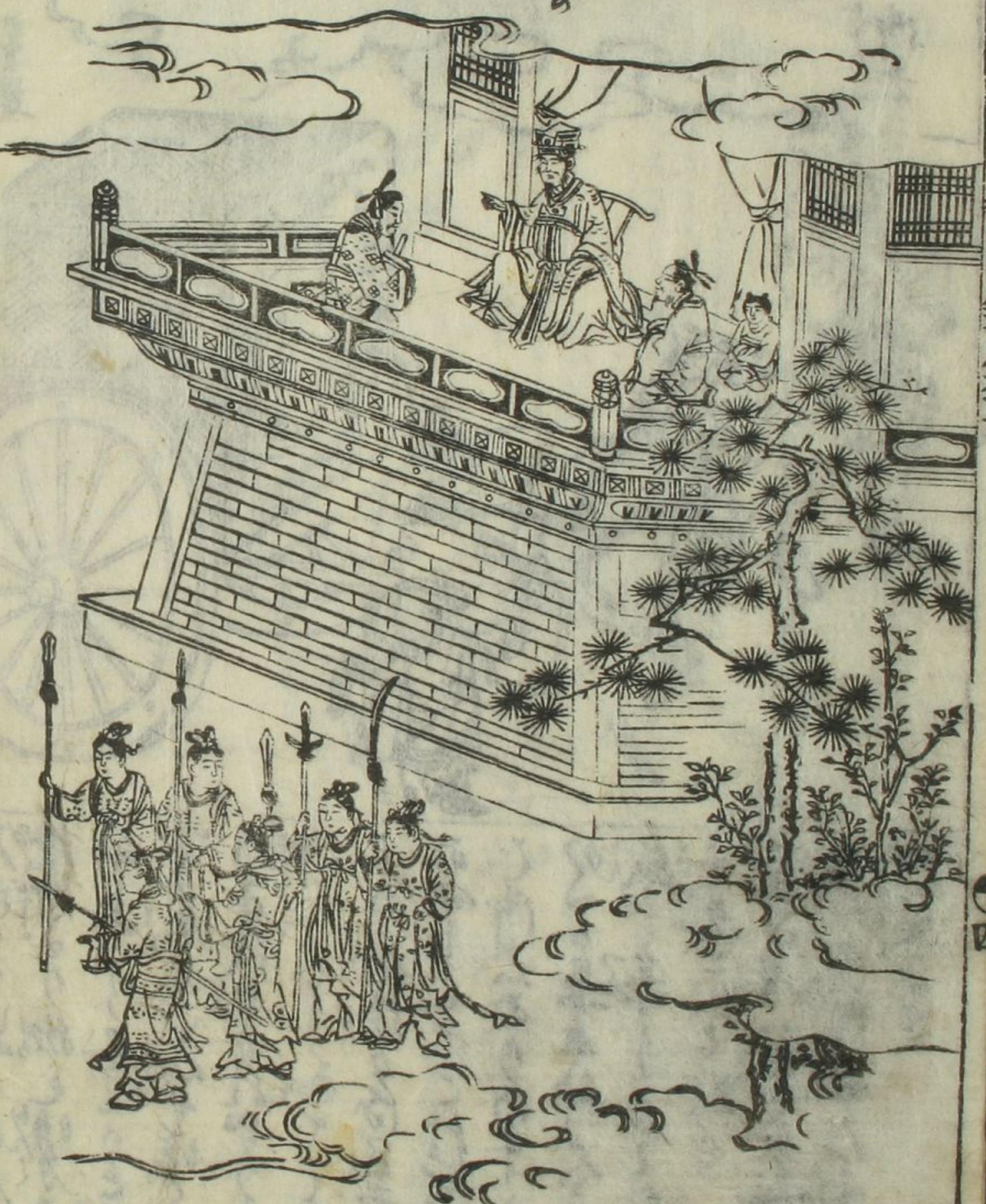
儀式ありとひよしの
如きが、足りりと四
ア妻もとてひる
御志大ア御てそれ
より御機多々黒妻
ゆ中そらと宣
じ御志ありのまゝ、此
感心ト遙了じこそ先
左支那と云ふ了
墨子姓ハ墨子姓
相應す

墨平仲 一月廿九日
門の間より、左室と同洞に
ゆき、櫛と駒馬と葉から
ゆきの様なり。腹よ
そも小身も、まことに
去り、傳説もまことの
ゆきと同義の同義のゆき
墨子の如く、よ滿ど
あれとも、もろ歎はる
御の相とて、名徳傍よ
り、是れ今月
より、未だか八

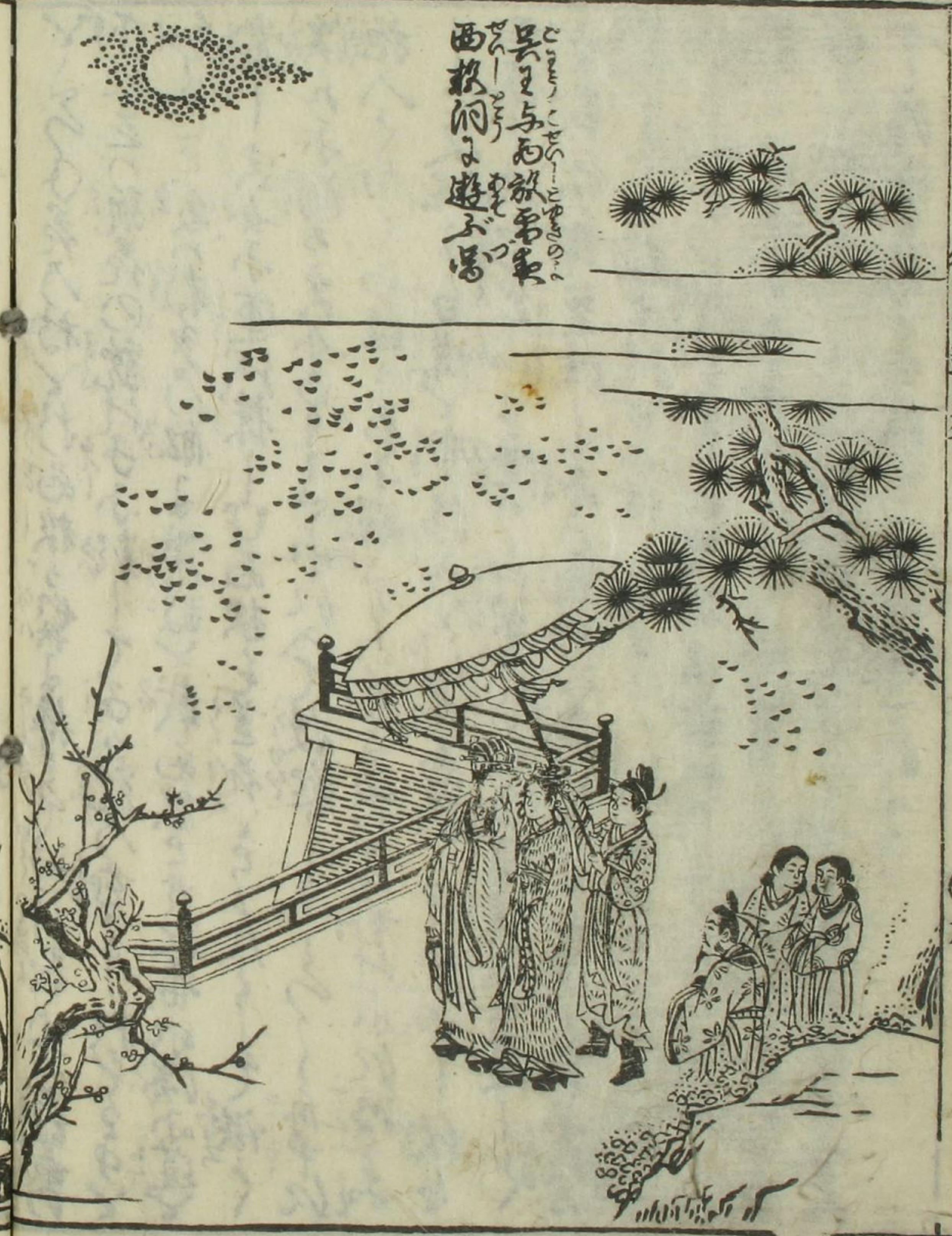
呂后操琴



呂后觀上



吳王支差与而游嬉八景
吳王望越と遊へて安江とて始蕪庵と建て遊覽す
御殿の桶小書き柱木全にて深千と玉。庭小
櫻草木と株植しにも歎とねらぬかばりて春之季
四時を八番よりうつゆどい本二年の候と候ふ年のか
女体殿の側より列ぐ移舞しに時小而放毛をす一より美
貌ぐひや玉代寵愛后妃小侍る又雪生山に西移洞
と藻花院香水溪西移洞移花池
移者煙雲泉井管壁
八十步小一亭八十步小一榭ありて
亭に達て小酒宴となり樹より遇海小憩焉齋の四方に面む
とさくの花乃枝とわ西移う樂よ拵しと同月義小百花叢の
下に立べ疏花の貌子小新して子が貌乃もトノ樹もくろと
初じてこ夜の移多乃船よ蒲鼓と載西移とたに香水溪小道
貴人小蓮衣採しひ西移毛茎花とちりんとて得く
抱へく回く西移うみ小漏る文女あすてれに合て枝起一玉もぐ
一と又溪より白珠と布清みと引く西移とた小活一松を
西移と共雪紫山よ登りわ葉吹くとひ被壁文よ處
吳王改事と理と畫表酒宴淫樂伏もトキニ圓政もあ
荒り休子音表章と奥とて徐しきととも金く御まく子音
生く歌じて曰吳の未築付が世のわー安そモモジガミス
中後遂よ越王勾践のためふ滅されり



吳生とあ放名集
西林洞より遊ぶ事



寫鈔卷六



寫鈔卷六

孔子率弟子與弟子并龍圓乃仁廟

聖の服王賢と弟子は皆持て利して覇業と振りんと
と欲とも居て後樂う向魯の孔仲尼は古也近聖人より首日
魚公これと用て多金大治り歎きり優せら地と返と今則
國ふ遊く晉に至り大王微よ覇とからねりおれと連へ
國の政と授う（家本）曰孔丘は迂傷すて財勞に生せしと服
主乃曰我仁例よ能く一知と捨ゆる群臣も名代勿失
キ聖人へんか寢みそ人の儀するもとあると云て役臣
と彼一物の名とぞして武さんとて別家本に一知とおせ
み小國へく同じ孔子を一知と乍りよ後太子と光
子は曰これ舜の夷がり食とれへ味辨さず審のとく家本
御辭りそりて服王に告じ王剝く群臣小賜ふことと食小
宴のじ服王即安車廻るよとて孔子遂に追じ孔子是
赴きと礼ふ答んとて嘗と反して進まつて陳蔡の二公お處

ちと曰く楚よ孔子と聞く覇と振て我小國若くんじて
孔子は既入て坐りて弟子は起して孔子尊
子略然て夫と挺く歎うんとて子曰君子は己と外て人成せれ
そ仁義と修とて世俗とく辛歎うんやこそ終と機と被ひま
陳蔡の長退ざらと七日糧盡く弟子は傍ろ子貢齋とこうの
候とれ牛羈よ野人小告弟一ふと歩ゆる都漏はも死
故ふ食事飯中へ置る飯四箇て食ふ子貢升の名すりとれ
及て竊食つてちぢれ孔子は於側が飯と食とと告て曰仁人
君子也病とてへ筋と改むう孔子曰吾圓が仁義徳じうとく
それか故あんとそ教圓とて曰曉者而教ふ先人張弓矢
こゑと察んとて子供へる飯と進よ圓の向向小堵事飯中に
入へり毛と毛と毛の案うどありと奉事とて惱（一板）小圓之
と食ふ索つてしぞ孔子の曰く絶つて五章を亦これと食つん圓
おわす曰吾が圓と後もうう今日のえれぬと子貢と坐を壁







孤獨の
二城と伏せ

そんのし
法と伏せ

せんとくちよすをと揚て一念と云徐後納清
金とて之天賜莫不えのじに二城號て辯一云る徐後又
キ長城事らんと奉一とどりてハ隊と布ニ城事のじ
あらる隊一今あるテ旅行て徐後又先レゆる次の和又
城事の徐後事て云試りて船模よ布刈一と二城彼家
小かくりて御例され子足傷とゆうづはれよ伏姫一ノ
徐後魏入く患まに思ひ王兵で中軍を支ふ船と船消
とお附て霸と奥さんとと馬りしひ時事中大昇一で
草木佳葉と百姓衰と若し候う風と候る嘆の術球
ひうれ船消魏主に奏一徐後とて船消らしも
候余材車て毎赤沫浴一變と教さ實釦とて漁人等
法と行ふ須臾して云起り風生一大雨休くと過く濱
川百姓大はれ小難と太よ國一徐後と封て徐魏大臣附
無參軍務事とて船消もくと徐後よ及ぶこととぞ

昭と徐とを立起出断てあれと重くけ財庫の役薄子
覧あそびよ徐後車に坐て寢とゆる神の威主其法と向
くこれと師とひき後魏軍韓と徐韓救ひと神小清威と納
因と伏ぬと徐後車に坐て韓と接しと徐後固三臺
去く大梁にゆき每ひ固三台とて戰ひんとて徐後固三
云百里みて趨と利あらどねと聞くと云つて魏者と云
疏勇あらそとて海と海と將んど今我柔弱とて傍
云と表密小船とて師と船と船消共と率て兵の隊とう入
モ窓と窓とて十方あり船消高十万の龜墨とく室く
推進んとて船と船とて急小進ふ船日徐後退と千里
去くて陳とねまふ方の窓とあて去る船消とくとて龜墨
減とくとて大よ車とて兵車と車と車と車と車と車と車
なりとろ歩軍と棄て渡るの兵と車ひ又進と一日徐子と行





程と度り高小る陵より下ひふる候食と林樹叢密
より細あ條よ若材をと撫ひ方擧と候て伏坐ア大树と候
作一石と塞ども木作作り白一と駆済ば樹下に死せんと
事て伏勢にて地して曰く日暮くひ樹下に火の光舉と見
一向小ら勢と登てこそ又三方の窓化て近く駆済速よ追
くる陵とのにてある時天自己小勞へ下歎軍は遠近に滅
ぼと見て收び兼し詔ね感曰承ふる陵の喰坐わくて遠進
がく又西くへ理伏あんと始くゆると後て追うと駆済也
曰今義退と世中とて縁傍と唐にとづきより豈あふやうる
通とぞんと云ふ事と追下とて難和と繼く追ゆる所深
軍圓全て承よ大本と塞て通後と愈り一の文まゐ音
とて舟と云駆済松門と照り白書とてもんの平太ふ事
き我則えが條に中と連く軍と圓と下と云す由ふ軍
ざれ海の軍万勢と俱よ登川とあるの下がじ難軍大少
礼と般と駆済痛半面て脅窮り遙よ堅子が名とがせりと
玄てまぐらもて死と兵軍揚よ寄てことぐく難軍と候り
魏のち子中と虜すとて城りしとて縁傍がく天下にあつれ
世モ無法体仰の強き代後も思雲と更び冠蓋と稱て雲霞飛
蓋ねおひ趙の官志令燈賢が舍人たり趙王嘗て和夷
壁とゆすひから伏秦の昭王は侯アて趙の惠文王に書
送り御の十五度の城とて侯小易経りんと云
趙王釋臣と儀して同あこわとあだ宣く城とゆ
わが白く臣壁と稱て秦に之とて必ずと秦に事あ
たみ嫌と逃に入今一品嫌とぬどんがむと全一と趙よ附
と爰に極ておおかへり望ば奉て秦に附じおおか
かて昭王に見く寡君秦趙の好とほんと興きて附進





越と秦主を殺す事よりて天下を安む。秦主曰。汝
を擣とす事と云ひ。商相如迎有あく秦主に告ぐ。曰。ば
汝を殺す事なり。とつても微服あり。臣是と大王ふふそん秦主に殺す。商
ねぬ。投へ。産おぬもとぬく。近き殿の柱があらへ。是る婆
ちもく冠と衝こ。秦主と聴く。大臣書と承み。之の
代の年ふ歲とあらへんとな。宣ふあるく。か主罰をう事。又日
めく重き。大臣は見ゆ時もあらご備え。もとと擣と
償ふう為うれと人を所へよ廢と後せり。大王威勢とゆく
臣と被まへ。臣が頭玉とたふけ。柱の擣碎。べと云。秦主玉と
御事と歩もく。産おぬよ謝して我様からまく。やうど
十ふ歳と銷かへ。と産おぬ度ふ是廢とぬんとて被く。う
とらじあせ。下和めうち天の延棄なり。大王又日乃
とあらか九賓の礼と役あり。臣とよろべとゆふ。秦主産
ねぬ。九賓の禮と役あり。臣とよろべとゆふ。秦主産
ふ館せし。産おぬから。臣李文との友志ふもと懷み。徑う
銷よゆ。し。秦主亦。もろととみ目みく。産おぬと。臣
り。し。産おぬ昭主ふ。得て。秦れ。經云。年二十。始
系ひ。すと。書物來と。黙く。もろ。今。あ。大王。之。故。
にゆく。を。ゆれ。西。も。て。う。能。が。生。ひ。ま。ん。大。王。う。く。之。能。と
と。ゆ。ひ。始。う。先。隊。と。銷。よ。入。る。能。う。と。れ。の。趙。主。ゆ。そ。す
と。殺。さん。と。の。主。の。ひ。く。こ。き。と。殺。す。う。た。能。う。と。れ。と
と。能。う。う。只。厚。く。遇。そ。ゆ。し。能。う。と。能。う。と。秦
と。歎。う。ふ。と。遂。よ。産。お。ぬ。と。歎。う。と。ゆ。と。秦
ゆ。き。ば。趙。主。大。よ。ち。び。産。お。ぬ。と。対。と。と。お。支。と。れ
折。け。前。光。の。壁。と。や。バ。首。楚。人。よ。祝。永。と。云。志。わ
主。主。人。よ。ア。キ。し。に。お。ゆ。だ。石。な。う。こ。つ。主。犯。う

とすて下和らがたの事と則る。又楚の主王に歎う。主王
殺され主王に死す。しりふ皆もかうとい。主王下和
ぐものと則る。下和血よ笑くいもく。主よは殊と知る
ゐなり。勇士とれて櫛くととと漢と抱て荆山の下に
隠る。主後より楚の文王へ奉ぐ。文王西と擺で庶に
ひりふ累とて光ると出。時わと照る日やめど。放す
名有く其のあえの聲と。趙の惠文王法候と云々^{アシテ}
時楚主より是とゆう。後ふ秦天下と一統すと秦侯よ
即じ破とて傍ゆれ。書と云へばまれとなつて
秦主又趙主とぬれ。龜池より舍せん事代行。趙主董わ
と云へ龜池より舍せん事代行。趙主董わ
寡人趙主れ言樂とめりととま今日射りへ趙將と鼓く
而樂と奏へ。趙主辭どうてとわざと妻と鼓く
妻と鼓へ。趙主と妻ととまの年月日。秦王龜池のとて
妻ひく。秦王歎く涙ぐだ。董わ如をあて。銚と進む秦王
の前よ躍づく。大王も銚と擊て秦の主考と
趙主と妻と鼓へ。秦王歎く涙ぐだ。秦王已事とゆどと銚と
將軍て被ふ。董わ如趙の御史とて。某年月日趙主龜池
のとて。秦王銚と擊て。秦王已事とゆどと銚と
趙よ務事なく酒宴彌ぐ趙王國小ゆり秦王の仇せん
了と。秦主もとて兵と殺て。お約とゆく。秦主に兵と勅と
事なし。主とて。董わ如初の大さとねととぞと御
く。董わ如小處と。もとと董わ如秦。董わ如と
者是げトに處らん事なし。董わ如と。董わ如と

厚うりんと葦ねぬまく歳てひらかみせじ處頗初モ
あよ葦ねぬ如ハ病と称トテ處故と雖トアソツスノ日葦
わぬ知ル小處故テ年ふとく車外リテく避医。葦ね
外シテ故人等従ミイク國等事ニ事アトヒテ急ジム義義と
慕ゲ。國ナリ。今處頗多云トウサム医避医。國
事れ甚シテハ何ぞヤ。葦ねぬがへとくられ秦主に之候せば
主教國と厚うりめテア。併モ今處ね軍と景生シヤ。義安す
強秦の兵と趙ふくり(さく)の處故と我と云トシケナリ。今汝
人弱ヒ辛リテ莫物ひとりふ死うん我うぬでどくもろうの私
の急と先ゆ。私わざと後ふらかりと處故是と傳ヘ
はて大よ慚。葦ねぬ門ひまう(まう)とあり。敬トアフ
て處と謝。處よねとよひまうんで生死とむとくもの
まづりとうせき

早稻田大学図書館

011688993417